



2016年6月1日

各 位

中外製薬、SA237に関するライセンス契約を締結

中外製薬株式会社 [本社：東京都中央区／代表取締役会長 最高経営責任者：永山 治] (以下、中外製薬) と F・ホフマン・ラ・ロシュ社 [本社：スイス バーゼル市／CEO：セヴリン・シュヴァン] (以下、ロシュ社) は、本日、中外製薬が創製した抗 IL-6 レセプターヒト化モノクローナル抗体「SA237」に関するライセンス契約を締結しましたのでお知らせいたします。

SA237 は、中外製薬が独自のリサイクリング抗体技術を駆使して創製した、IL-6 レセプターを阻害する抗体です。SA237 は、一つの抗体が抗原に繰り返し結合できるようにデザインされているため、抗体が作用する時間が延長され、その結果、投与間隔の延長や少ない投与量での治療効果が期待できます。現在、重度の視神経炎と横断性脊髄炎を特徴とする免疫性中枢神経疾患である視神経脊髄炎を対象として、中外製薬主導の下、主要な二つの第 III 相国際共同治験が欧米、アジアを含む 10 カ国以上の国々で実施されています。

中外製薬 代表取締役社長 最高執行責任者の小坂 達朗は、「このたびの契約は、当社独自の抗体改変技術をベースに創製された SA237 のポテンシャルを示すものであると受け止めています」と述べるとともに「未だ承認された治療薬がない視神経脊髄炎で苦しむ世界中の患者さんへ、いち早く SA237 をお届けできるよう、ロシュ社と共に開発の加速に尽力してまいります」と語っています。

本契約により、中外製薬は SA237 の日本、韓国および台湾を除く全世界における開発・販売の独占的实施権をロシュ社へ許諾するとともに、ロシュ社に対する製品の供給を行います。また、ロシュ社よりその対価として契約一時金、マイルストーンペイメントおよびロイヤルティを受領します。

以上